

(様式第 1 号)

平成 28 月 5 月 25 日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : ②医療に関する領域

科 目 名 : ②-1 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I

単 位 数 : 2 単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 公益社団法人長野県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒 380-0928

長野県長野市若里 7-1-7

電話 : 026-223-6670

FAX : 026-223-6679

E-mail : sakai@kaigo-nagano.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (公社) 長野県介護福祉士会
会長 畠山仁美 印

申請責任者 : 酒井 良育

記

○認定介護福祉士認定研修認証申請書 (別紙 1 ~ 3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	医療に関する領域	
科目名	疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	・認定介護福祉士として、生活支援の場面で必要となる医療的ケアや判断及び医療職等との連携の際の根拠となる医療に関する基礎的な知識を獲得させる。	
到達目標	・生活支援場面で必要となる、解剖生理、病態生理、症候、疾病等の基礎的な内容を理解し、他者に説明できる。 ・疾患・障害等について、その機序、主な症状、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できる。	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>○ 生活支援場面で必要となる解剖生理、病態生理、症候、疾病等に関する基礎的な知識</p> <p>【「疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I」で扱う疾患・症候】発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、便秘、失禁、頻尿、浮腫、腹痛、食欲不振、咳、痰、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、難聴、視力障害、眩暈、麻痺、振戦、腰痛、膝痛、不眠、褥瘡</p> <p>○ 疾患・障害等において、生活支援に必要な基礎的な知識</p> <p>各疾患・障害等において、次の内容をふまえる</p> <p>①機序、症状、診断・治療、経過と予後</p> <p>②主な薬の知識（作用と副作用）</p> <p>③リスクと対応</p> <p>④生活支援の留意点・観察ポイント</p> <p>⑤他職種と共有すべき情報 等</p> <p>【「疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I」で扱う疾患・障害】</p> <p>・神経系疾患</p> <p>①神経筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）等）</p>	<p>○事前課題①（2時間）</p> <p>生活支援場面で必要となる解剖生理・病態生理・症候・疾病等に関する基礎的な知識について、教材を自己学習する。</p> <p>○事前課題②（3時間）</p> <p>「疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I」で扱う疾患・症候の一部の疾患・症候について、具体的事例を状態観察し、各疾患・症候毎400字程度にまとめる。その際、状態観察日時、場所、事例の性別年齢、生活環境の状況、症状の状態観察内容等を記して下さい（A4、パソコン使用、裏表印字可）</p> <p>1) 事前課題①は事前課題②を行う上の基礎知識となります。教材を自習し、事前課題②に取り組んで下さい。</p> <p>2) 事前課題②は、研修内容（プログラム）の「生活支援場面で必要となる解剖生、病態生理、症候、疾病等に関する基礎的な知識で扱う疾患・症候」で示される各症状（発熱、脱水、悪寒、嘔吐、下痢、便秘、失禁頻尿、浮腫、腹痛、食欲不振、咳、痰、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、難聴、視力障害、眩暈、麻痺、振戦、腰痛、膝痛、不眠、褥瘡）について、実際に観察して症状を理解する事を目的として記録を作成します。介護現場では、殆どの症状が日々状態観察されるのですが、症状名と症状を対応させて理解していないことが多いので、今回は事前課題②の実施を通して、現場で頻りに状態観察される症状の実際を指導者としての立場から理解する事としました。</p> <p>講義では、研修プログラムの目的にそって、7時間でこれらの症状について認定介護福祉士として、医療職との連携時に介護スタッフや関係者に説明指導に活かせるよう、これら事前課題②の実施内容を分析し参考にして、全ての症状について</p>

<p>②脳血管疾患（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血、一過性脳虚血発作（TIA）等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害 ・循環器系疾患（慢性虚血性心疾患・狭心症・急性心筋梗塞・高血圧性疾患） ・呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患・誤嚥性肺炎・不顕性肺炎） ・代謝性疾患（脂質異常症・糖尿病） ・筋骨格系疾患 <p>①骨関節疾患（膝関節症、骨粗鬆症、関節リウマチ・腰部脊柱間狭窄症）</p> <p>②高齢者に多い骨折等（大腿骨頸部骨折・橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患（統合失調症、うつ病、せん妄、アルコール依存症候群、睡眠障害等） ・知的障害（精神遅滞） ・発達障害 ・その他の疾患：老人性白内障、緑内障、老人性難聴 	<p>て適切に理解し説明指導できることを目標に授業を行います。</p> <p>○事前課題③（4時間）</p> <p>疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I で扱う疾患・障害における生活支援に必要な基礎的な知識（機序・症状・診断・治療・経過と予後、服薬の作用と副作用）について、教材を自己学習し理解する。</p> <p>○事前課題④（5時間）</p> <p>事前課題③で自己学習した内容について、各疾患群から一つずつ選択し、①機序・症状・診断・治療・経過と予後、②服薬（作用と副作用）について整理してレポートにまとめ提出する（A4、パソコン使用、裏表印字可）。</p> <p>1) 事前課題③は、事前課題④を行う上での基礎知識となりますので、教材を自習し、事前課題②に取り組んで下さい。</p> <p>2) 事前課題④は、研修プログラムの「疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I」で疾患・障害（神経系疾患・高次脳機能障害、循環器系疾患、消化器系疾患、呼吸器系疾患・代謝性疾患、筋骨格系疾患、精神疾患、知的障害・発達障害、その他）において、生活支援に必要な基礎的な知識（機序、症状、診断、治療、経過と予後、服薬の作用と副作用、リスクへの対応、生活支援の留意点と観察のポイント、他職種と共有すべき状等）について、適切な実践や判断が可能となると同時に、医療職との連携や他者に説明指導が可能となるよう、研修プログラムにそって9時間の講義を行います。その際、事前課題④の実施内容を分析・参考にし、授業を勧める予定で、事前課題④で受講者が十分に理解できなかった点や介護現場で特に注意を要する部分等について配慮して、授業を進めたいと考えます。そして、これらについて理解すると同時に、医療職との連携や他者に説明指導が可能となるよう、授業をすすめたいと考えます。</p> <p>○生活支援場面で必要となる解剖生理・病態生理・症候・疾病等に関する基礎的な知識について、介護職としての実践のみならず医療職との連携や他者の指導等が可能となるよう理解を深める（講義7時間）</p> <p>①発熱、脱水、悪心、おう吐、下痢、便秘について、解剖生理・病態生理の視点から症状を理解し、適切な介護実践や判断につなげると同時に、医療職との連携や他者への説明指導に活かせるよう学ぶ（2時間）。</p> <p>②失禁・頻尿、浮腫、腹痛、食欲不振・褥瘡について、解剖生理・病態生理の視点から理解を深め、適切な介護実践や判断に繋げる同時に、医療職との連携や他者への説明指導に活かせるよう学ぶ（1時間）。</p> <p>③咳・痰・喘鳴・呼吸困難・誤嚥について、解剖生理・病態生理の視点から理解を深め、適切な介護実践や判断に繋げると同時に、医療職との連携や他者への説明指導に活かせるよう学ぶ（1時間）。</p> <p>④動悸・不整脈・胸痛について、解剖生理・病態生</p>
---	---

②-1 疾患・障害者等のある人への生活支援・連携 I

	<p>理の視点から理解を深め、適切な介護実践や判断に繋げると同時に、医療職との連携や他者への説明指導に活かせるよう学ぶ（1時間）。</p> <p>⑤難聴・視力障害・眩暈・麻痺・振戦・不眠について、解剖生理・病理生理の視点から理解を深め、適切な介護実践や判断に繋げると同時に、医療職との連携や他者への説明指導に活かせるよう学ぶ（1時間）。</p> <p>⑥腰痛・膝痛について、解剖生理・病態生理の視点から理解を深め、適切な介護実践や判断に繋げると同時に、医療職との連携や他者への説明指導に活かせるよう学ぶ（1時間）。</p> <p>○疾患・障害等にある人への生活支援・連携 I で扱う疾患・障害における生活支援に必要な基礎的な知識（機序・症状・診断・治療・経過と予後、服薬の作用と副作用、リスクへの対応、生活支援の留意点と観察のポイント、他職種と共有すべき情報等）（講義9時間。）</p> <p>①神経系疾患・高次脳機能障害について生活支援に必要な基礎的知識を理解し、適切な実践や判断が可能になると同時に、医療職との連携や他者に説明指導が可能となるよう学ぶ（3時間）。</p> <p>②循環器系疾患・消化器系疾患について生活支援に必要な基礎的知識を理解し、適切な介護実践や判断が可能になると同時に、医療職との連携や他者に説明指導ができるよう学ぶ（2時間）。</p> <p>③呼吸器系・代謝性疾患・筋骨格系疾患について生活支援に必要な基礎知識を理解し、適切な介護実践と判断が可能になると同時に、医療職との連携や他者に説明指導ができるよう学ぶ（2時間）。</p> <p>④精神疾患・知的障害・発達障害・その他の疾患について生活支援に必要な基礎知識を理解し、適切な介護実践と判断が可能になると同時に、医療職との連携や他者に説明指導ができるよう学ぶ（2時間）。</p>
<p>研修方法</p>	<p>■ 集合研修 ■ 課題学習</p> <p>○ 集合研修講義を行う。 ○ 課題学習は事前課題として、①③資料を読み自己学習、②④レポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p>
<p>研修時間</p>	<p>30 時間（集合研修 16 時間、課題学習 14 時間）</p>
<p>修了要件</p>	<p>○ 全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計 30 分（遅刻、早退それぞれ 15 分）を上限として認める。（レポート課題なし）1 日のプログラムのうち、始めの 30 分を超える遅刻、終わりの 30 分を超える早退であって 120 分以内である場合、レポート課題による代替を可能とする。120 分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。 ○ 修了評価として行う筆記試験（50 問程度）において、A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）であること。D 評価（59 点以下）の場合は、再試験を行い、A～C 評価とならなければ「疾患・障害等のある人への生活支援・連携 II」科目は受講できない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p>
<p>講師要件（講師の選定基準）</p>	<p>・ 当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・ 補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験</p>

②-1 疾患・障害者等のある人への生活支援・連携 I

	がある者
(2)受講者について	
受講対象 (受講要件)	単位取得ができるのは介護福祉士資格を有する者であること。
修了評価	筆記試験（50問程度）により行い、100点～80点をA評価、79点～70点をB評価、69点～60点をC評価、59点以下をD評価とする。A～C評価（100点満点中60点以上）で修了とする。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	30名（講師1名）
開催場所（都道府県）	JA長野県ビル（長野県長野市）

(別紙 3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 29 年 1 月
	②
	③
開催場所 (会場)	①
	② 長野県長野市 JA 長野県ビル
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当する講義等 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I、
	中村裕子 氏 (医学博士・保健学修士) 日本ヒューマンヘルスケア研究所所長、前聖隷クリストファー大学大学院教授、山形県立保健医療大学非常勤講師、豊橋創造大学非常勤講師、栗原市立栗原中央病院リハ科非常勤講師、日本介護福祉学会理事、日本言語聴覚士協会代議員、社会福祉法人さくら理事、 主な著書 「言語聴覚障害総論」共著、医学書院、2012。 「コミュニケーション技術」、編者、中央法規出版、2012。 「臨床家のための生命倫理学」、監訳、協同医書出版、2007。 「臨床失語症学」監訳、西沢書店、2006。「高次脳機能障害論」共著、建帛社、2013。「認知症の理解と介護」、編者、メチカルフレンド社、2014。「生活支援技術(障害編)」編者、メチカルフレンド社、2013。他。
	担当する講義等 修了評価 中村裕子 氏 (医学博士・保健学修士) 履歴等は同上
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	研修委員会 (非常勤：17 名) 事務局 (担当事務局員、常勤：4 名) 研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。また、できる限り研修委員会の委員が研修を見学し、研修内容を評価するとともに、随時、研修の見直しを図る。
研修の企画運営に関する諸規程	研修委員会設置要綱
研修管理責任者職名	副会長
研修管理責任者氏名	原千香子
機構問合先部署	長野県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	酒井良育

機構問合せ電話番号/FAX	026-223-6670 FAX 026-223-6679
機構問合せ e-mail アドレス	sakai@kaigo-nagano.jp
受講問合せ先部署	長野県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	酒井良育
受講問合せ電話番号/FAX	026-223-6670 FAX 026-223-6679
受講問合せ e-mail アドレス	sakai@kaigo-nagano.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	長野県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○外付けディスクにバックアップデータを保管する。 ○データ保存期間は 10 年間とし、その後は外付けディスクにてデータを保管する。 ○個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	全課程を修了した者には、会長名による修了証書を発行する。
管理責任者氏名	土屋一都(事務局長)
管理担当者氏名	酒井良育(担当の常勤職員)